　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　2015-11西　宏

**般若心経**

摩訶般若波羅蜜多心経

　Maha-prajñāpāramitā-hŗdaya-sūtra

観自在菩薩。行深般若波羅蜜多時。照見五蘊皆空。度一切苦厄。舎利子。色不異空。空不異色。色即是空。空即是色。受想行識。亦復如是。舎利子。是諸法空相。不生不滅。不垢不浄。不増不減。是故空中。無色無受想行識。無眼耳鼻舌身意。無色声香味触法。無眼界乃無意識界。無無明亦無無明尽。乃至無老死。亦無老死尽。無苦集滅道。無智亦無得。以無所得故。菩提薩埵。依般若波羅蜜多故。心無罣礙。無罣礙故。無有恐怖。遠離一切顛倒夢想。究竟涅槃。三世諸仏。依般若波羅蜜多故。得阿耨多羅三藐三菩提。故知般若波羅蜜多。是大神呪。是大明呪。是無上呪。是無等等呪。能除一切苦。真実不虚。故説般若波羅蜜多呪。即説呪曰。羯諦羯諦。波羅羯諦。波羅僧羯諦。菩提娑婆訶。般若心経。

　　　般若心経

<私訳>(＝観音、)と言う名の（＝）は（＝仏陀の智慧の実践）を深く修行している時、（＝。人間の体と心）はすべて「」であることを明らかに知り、(自分を) 一切の苦悩と不幸から救済することができた。

　　　　　観音；－音を観る、と言う形で万能であることを示す。歴史的人物ではない。

　　　　観音菩薩は女性ではなく、母性原理と見るのが正しい。

　　　　　菩提；－全智。科学的知識や教養ではなく、瞑想中に六道輪廻などを体験的に知る。六神通と言われる超能力を得るが、そこに留まらずさらに先へ進むのが「成仏、成道」と言う言葉で表される。

　　　　　薩埵；－大士と訳される、偉大な人と言う意味。

　　　　　般若波羅蜜多；－修行者の達成すべき六つの波羅蜜多（＝修行徳目）のうち、最も大切な、瞑想による智慧の修行。－訳者

　　　　　空；－6根のひとつ。普通の五感では感じることができない人間の構成要素。

　　　　　涅槃、菩提、、悟りはすべて自己の救済と解放を意味する。－訳者

**La Sutro de la Esenco de la Praĵnja Paramito**

2015-11 Zefiro

　Kiam la bodisatvo Avalokiteŝvaro sin-ekzercis profunde per la Praĵnja paramito, klare konis, ke la 5 komponantoj estas ŝunjaj. Kaj pro tio la bodisatvo povis savi sin de la sufero kaj malfeliĉo.

Avalokiteŝvaro;- Tiu ĉi bodisatvo ne estas historia homo.

　　　　　la praĵnja paramito;- unu el la 6 necesaj ekzercoj por budhiĝo.

la 5 komponantoj;- la 5 faktoroj por konsisti homan korpon kaj koron.

T.e. korpo, sento, distingo, formivo, sensaco.

ŝunja;-io ne sentebla per homa sens-organoj, sed imagita io inter ekzisto

kaj mal-ekzisto.

Nirvano, bodio, klara koro, ver-vekiĝo signifas homan saviĝon kaj emacipiĝon.

「舎利子よ。色（＝身体、物体）は (言い方は違うが) 空である。空は色と離れて存在するものではない。色はすなわち空であり、空は色そのものである。残りの四つの蘊もまた同じ（空）である。

　　　　　舎利子；－釈尊の従僕。

　　　　　空；－空は語根としては名詞ではなく、形容詞。－訳者

　　　　　空は物体と不可分に結びついているから、色即是空と言える。あえてたとえるならば、相対性理論における物質とエネルギーの関係。－訳者

　　　　　人体は、五大すなわち地・水・火・風・空の仮合によって形成される。本文では色＝空と断定して、五蘊のすべてが人間を人間たらしめるものの正体であると主張する。ここには（＝アートマン。固定的実体）は無い。すべては因縁による仮合であって絶対不変の我というものは無い。－訳者

“Ŝariputra! Korpo estas ŝunja, kvankam la esprimo estas alia, ŝunjo ne troviĝas

for el korpo. Do, korpo egalas al ŝunjo, ŝunja estas korpo mem. Kromaj 4 komponantoj estas samaj.”

　　　　　Ŝariputra;- servanto de Gotamo la Budha.

　　　　　Ŝunja;- ŝunj’ radike ne estas substantiva, sed adjektiva.

Ĉar ŝunjo ne estas apartigebla kun korpo, direblas, ke “korpo estas ŝunjo. Aŭdace dirite, ke ambaŭ estas en la rilato de objekto kun energio flanke de la relativeca teorio.

Ĉar la homo estas konsistita de 5 elementoj, kaj ili estas ŝunjaj, ĉi tie ne troviĝas senŝanĝa memo (=atmano). Ĉiuj estas provizoraj kunmetaĵoj per la motiv-sekvo.

「舎利子よ。このようにすべての存在物における空のあり方は、不生不滅、不不浄、不増不減である。空の中には、五蘊というものが無い。六根（＝、感覚器官）も無く、六（＝、根に対応する現象）、六識（＝眼耳鼻舌身意の認識）も無い。眼界から意識界（＝六根、六境、六識を合わせて十八界）まで一切（本質的には）存在しない。」

空が不生不滅、不増不減であるかどうかには科学的確証はないが、形容詞であればその問題はない。不垢不浄であることは、汚れと清浄はその人の分別で決まることで、存在物自体にはその価値判断は無い。「空」は清浄とされる。

　　　　　「是故空中」：－この「是故」は修辞の上でつなぎにならない。空が不生不滅なので、すべての存在物が「無」である、というのでは説明が成り立たない。

　　　　　眼（根）によって見られるものは色（境）、それを認識するのは眼（識）、耳によって聞かれるものは声、鼻によって嗅がれるものは香、このように眼─物体─眼による認識、などの組み合わせで物事は認識される。ただし、意(根) ─法（境）─意（識）は前５種とは違い、意味不明でｻﾝｽｸﾘｯﾄ原文でも解釈できないとのこと。ここでは俗語の「第六感」をイメージとした。－訳者

“Ŝariputra! Okaze de ĉiuj estaĵoj la ŝunjo estas ne naskiĝa nek estingiĝa, ne malpura nek pura kaj ne multiĝa nek malmultiĝa. En la ŝunjo ne troviĝas la 5 komponantoj, ne la 6 organoj, nek la 6 senteblaj fenomenoj. Des pli ne troviĝas la 6 sensacoj. Entute la 18 ingrediencoj tute ne troviĝas.

　　　　　la 6 organoj;- okulo, nazo, orelo, lango, haŭto, koro.

la 6 senteblaj fenomenoj;- objekto, voĉo, odoro, gusto, tuŝo, imago.

la 6 sensacoj;- percepti sentojn ricevitajn per la 6 organoj.

「（さらに空の中には）十二因縁（＝無明から老死まで）は無い、それが尽きることも

ない。 (＝苦集滅道。苦悩と不幸から人を救済する過程) は無い。智慧や功徳は無

い。なぜならば（法の世界は）「無所得」だから。

　　　　　十二因縁；－無明-行-識-名色-六根-触-受-愛-取-有-生-老死。

　　　　　それが尽きる；－人は救済された清浄の中に生まれるのではなく、苦によって生まれ、苦によって生き、苦によって死ぬ、とするのが仏教の根本的前提。一切皆苦と言う。－訳者

　　　　　無所得；－「仏教では、得るもののないことが執着のない状態と結びつくとみなされた」<岩波仏教辞典>。 三界唯心と言われるように、すべては心の働きだけの世界なので、仏教では実利や名誉、権威を計算しないで行動することが要求される。－訳者

(Ankoraŭ pli, en la ŝunjo) La 12 kaŭzoj kaj motivoj ne troviĝas. sed ili neniam finiĝas. Ne troviĝas la 4 faktoj. La budha saĝo kaj ankaŭ budha virto ne troviĝas, ĉar en la ŝunjo) ne troviĝas profito nek honoro (en la darma mondo).

la 12 motiv-sekvoj;- 12 etapoj de la homa estiĝo ĝis la morto.

sed ili neniam finiĝas ;- Homo naskiĝas per sufero, vivas en sufero, kaj mortas en sufero. Tio estas budhisma teorio.

「菩薩たちは般若波羅蜜多を修行したので心にさまたげが無く、さまたげがないがゆえに、(心に) 恐怖がない。一切の逆想と妄想（＝顛倒夢想）から離れて、究極には涅槃に向かう。三世の諸仏（＝現在・過去・未来の仏陀たち）は般若波羅蜜多を修行して最高の菩提を得る。」

　　　　　逆想と妄想；－逆想：世間の感覚と仏教の教えは多く反対のことがある。たとえば、小欲知足、利他。妄想：地位、財産、名誉、世評。

　Ĉar bodisatvoj sinekzercis per la praĵnja paramito, ne havas obstinon en la koro. Pro tio ili ne havas timon en la koro. Foriginte la tutan inversajn penson kaj revon, ili direktas sin al nirvano. La budhoj en la mondoj, pasinta, nuna kaj estonta, sinekzercas per la praĵnja paramito, povas akiri la plej altan bodion.

　　　　　inversaj pensoj；－Eta deziro, ega kontento, altruismo k.t.p.

inversaj revoj；－deziri socian rangon, bonhavon, honoron, renomon.

「ゆえに、般若波羅蜜多は神の偉大な真言であり、智の偉大な真言であり、無上の真言であり、比べるべきものの無い真言であることを知る。よく一切の苦を除く。これは真実であり、虚しいものではない」

　　　　神；－創造神ではなく、人間を超えた存在、中国的には神、天人、真人など

で仏教の菩薩、仏陀などを表現する。－訳者

　　　　　真言；－マントラ、呪と訳する。言葉の呪術性を重んじて音訳される。

　Pro tio La Sutro de la Esenco de laPraĵnja Paramito estas dia granda mantro, granda praĵnja mantro, la plej alta mantro kaj senkompareble alta mantro! Ĝi bone

forigas ĉiujn suferojn. Tio estas vero, sed ne malvero.

「では、その真言を言おう。。。。。」

　Nun, mi diru la mantron “gate gate pāragate pāra-saṃgate bodhi svāhā.”

ｻﾝｽｸﾘｯﾄではeとoは長母音になる。

Marŝu, marŝu, kune marŝu, al la bordo de l’ bodio, benatoj! －訳者

行け　行け　かの岸へ　いざ共に渡らん　幸いなるかな：瀬戸内寂聴

往ける者よ、往ける者よ、彼岸に全く往ける者よ、さとりよ、幸あれ。：「バウッダ」

往けり、往けり、彼岸に往けるときに、彼岸に往きつきて、悟りあり。：金岡秀友「般若心経秘鍵」

自度　他度　普度　彼岸度　覚　成就：La Japana Budhano N-ro237

般若心経を終る。

Jen, la fino de La Sutro de la Esenco de laPraĵnja Paramito.

　 般若心経は、日本の伝統仏教13宗のうち阿弥陀如来を信仰する4宗を除く他の宗派で重んじられている。

　　　　般若心経は空を説く般若経典群600巻の中でも最小の経典で、それでも大品と、小品があり、ここに使用したのは普通に知られている小品である。

小品のｻﾝｽｸﾘｯﾄ写本（梵字表記）は法隆寺に保存されている（ターラの葉）心経が世界で唯一のもの。現在はラテン文字に置き換えられたものが読める。この心経でも他に比べると欠けている部分があるらしい。漢訳には鳩摩羅什訳と玄奘三蔵訳があり、日本では後者が使われている。これは翻訳であるからリズムを整えるために追加や削除した語句がある。本文の意味不明部分はｻﾝｽｸﾘｯﾄ原文でもわからないと言う。

　　　　この般若心経小品には序分（＝導入部：「如是我聞」にはじまり時・所・話者・聴衆を述べる）と分（＝天人たちの賞賛や、聴衆の「歓喜奉行」で終わる感謝の表明）を欠く。正宗分（＝本文）だけの変則的形式である。文字数にして262。

　　大品の序分は「一切知に帰命す」であり、続いて「ある時釈尊は王舎城の鷲の峰に多くの弟子たちと共にいたが、深い定に入られた。そこで、観自在菩薩が舎利子に語りかけた。」以下の正宗分は小本と同じと聞いている。流通分は「その時、釈尊は深い定より出て、喜びに満ちた声で、観自在菩薩に賛意を表された『その通りだ、善男子よ、その通りだ。般若波羅蜜多を実践する時には。』舎利子、観自在菩薩、集まっていたすべての人々は、釈尊の言葉に歓喜した。」

　　　　本文は、観自在菩薩が舎利子に智慧波羅蜜多の冥想の結果を説く。教師は釈尊

ではなく、聞き手の代表は釈尊の侍者である。主題は「空」であり、それを「無」

という否定を26回使って（無明、無所得などの名詞は数えない）、仏教の基礎

知識を全否定することで示している。それでも「空」を理解することは不可能で

あろう。さらに不可解なことだが、「十牛図」でも最後には「悟り」さえ捨てて

しまうのだから、仏教の神髄は仏教さえ忘れることか。

　　　　最後に記録されている真言は、彼岸（＝仏の世界）への勧誘と読めるが、これ

が「空」とどんな関係なのか説明する言葉は無い。ただ、わかっていることは、

「空」の理解には冥想でしか入れないし、悟りの後には衆生の救済・利他の生き

方しか残されていない。－訳者

　ここまで書いてきても、訳者には心経の価値がわからない。語句を追うことは

できるが、全体として何を示すのか。残されたのは般若波羅蜜多を実践し、そこ

に何があるかを探ることだろう。まことに仏教は机上の学問だけでは納まらない。